

The Complexity in the Public Space with Street Vendors as Urban Actors in the Nonthaburi Pier, Bangkok Metropolitan Region

ピチャウット, ヴィルタマウオン

<https://hdl.handle.net/2324/5068155>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名 : PITCHAWUT VIRUTAMAWONGSE

論 文 名 : The Complexity in the Public Space with Street Vendors as Urban Actors in the Nonthaburi Pier, Bangkok Metropolitan Region
(バンコク首都圏ノンタンプリー栈橋地区を対象とした都市アクターとしての露天商の存在がもたらす公共空間の複雑性)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

東南アジア・東アジアの諸都市における露天商の存在は、都市環境の良い面と悪い面を併せ持ち、都市に不可欠な要素の一つであることが知られている (Yasmeen & Nirathron, 2014)。既往研究では、露天商の様々なタイプと実空間における配置、露天商に関する社会経済的背景、都市の複雑なコンテキストにおける露天商の非公式の管理システムに焦点が当てられてきた (中村・古谷, 2010; Nirathron, 2017)。しかし、限られた公共空間の中での露天商の存在がもたらすポジティブな成果とネガティブな影響との間の緊張関係は、これまで批判的に扱われてこなかった。

本研究は、露天商を含む複数の都市アクターによる空間の「占有 (Invasion)」あるいは「占有された領域」という概念を導入し、露天商の存在がもたらす公共空間の問題を取り上げる。通勤・通学等のため多数の歩行者が発生する都市環境においては、利用者のニーズに対応して、多くの露天商が公共空間を占有することが想定される。露天商の占有が、市民の公共空間の利用に支障をきたすことが日常化しているが、占有の許容範囲という課題を検討する必要がある。このような課題意識に基づき、露天商等により占有された公共空間の実態調査に加え、露天商と周辺環境との関係を把握し、露天商の存在がもたらす公共空間の複雑性の構造を解明することを本研究の目的とする。

本研究は、6章で構成されている。

第1章では、序論として、研究の目的、方法、構成について述べ、本研究の位置づけを示した。

第2章では、本研究の対象地区であるバンコク首都圏に位置するノンタンプリー栈橋地区の利用状況と地区特性を整理した。バンコク首都圏の類似地区との比較を踏まえ、同地区は、複数の公共交通機関の結節点であり特にラッシュ時の交通量が多いこと、様々なタイプの都市アクターが存在すること、公共空間が多様な活動を支えていること、多数の露天商が公共空間を占有していることを指摘し、本研究の目的に合致する分析対象地区であることを示した。

第3章では、対象地区の公共空間における露天商の占有と都市要素の実態調査を合計30日間行い、占有された領域と残された領域の比率を計測した。その結果、連担した1つの公共空間の中にも、特定の領域ごとに露天商の活動を支える異なる都市要素が存在し、その領域特有の隠れたシステムによって空間が管理されていることがわかった。特性が共通する領域に分類して比較した結果、特に歩道部分は露天商の占有割合が高く、平均で全長の45%の区画にしか、十分な歩道幅 (全体の75-100%) が残存していない実態を指摘した。上記の長期間にわたる調査と分析に基づき、露天商を中心とした都市要素と公共空間の物理的関係とその動的な変化のパターンを明らかにした。

第4章では、露天商が都市環境において占める役割を動的に解明する機会として、新型コロナウ

ウイルス感染症というイレギュラーな状況下での露天商の活動と顧客行動の変化、及び露天商の存在に対する意識と態度について実証的に検討した。調査結果から、1) 顧客の購買行動には軽微な変化が見られるが、露天商の活動自体は維持されたこと、2) 露天商の収入は大幅に減少しており、多くの露天商が営業日を減らすという形で事態に対応したことが明らかになった。クロス集計分析によって、調査期間中の露天商の数の変化に与える要因として、政府の防止ガイドラインの発動、露天商の種類、設置場所、都市アクターの減少などが、結果に影響することが分かった。さらに、利用者の年齢による露天商に対する行動と態度の違いとして、中高年層は露天商に依存し、公共空間における露天商の存在を容認するのに対して、若年層は、露天商の活動のない公共空間を好んでいるという結果が得られた。

第5章では、都市環境内に存在する多様な要素間の複雑な関係を理解するために、Bruno Latour によるアクター・ネットワーク理論の方法論を援用した (Latour, 2007)。具体的には、ノンタブリー栈橋地区で観察される都市のアクター、アクティビティ、都市要素の3つのカテゴリーを設け、フィールド観察および写真収集によって、前記のカテゴリーに含まれる個別要素を確認した。その結果、同地区のネットワークにおいて判別された26種のアクターの中で、露天商が最も多くのつながりを持つことから、公共空間の重要な関係項として機能していることが明らかになった。アクター・ネットワーク理論の理論的アプローチにより、ノンタブリー栈橋地区の公共空間における事物の複雑な関係性を、ネットワーク上の事物のつながりとして可視化し、その関係構造を追跡することが可能となり、今後の研究において、都市の複雑性を理解するための重要な鍵となり得ることが示された。

結論部となる第6章では、本研究で都市環境の複雑性を理解し可視化する手法として開発された方法論の特徴を既往の研究と比較して考察し、対象地区以外の都市環境の複雑性を解き明かすために必要とされる汎用性についても議論した。また、アクター・ネットワーク理論の方法論が、都市の複雑性に関する知見を深めることに寄与していること、およびその知見に基づく都市政策への展望についても言及した。